

**令和5年度 豊中市総合計画審議会
第2回会議 議事要旨**

【日 時】令和5年（2023年）11月7日（火）18時00分～20時00分

【場 所】第二庁舎3階大会議室、ZoomによるWEB会議

【出席者】有川委員（オンライン）、大野委員（オンライン）、加藤委員、久委員、
壬生委員（オンライン）、森委員、石井委員、森山委員、八木委員

【欠席者】宗前委員、吉村委員

【事務局】簗床都市経営部長

都市経営部経営戦略課：森田、田中、高橋、島、松田、麻田、大重

【傍 聴】

【案 件】1. 総合計画審議会部会の審議結果の報告について
2. 2023年度(2022年度実施分)政策評価結果への意見集(案)について
3. リーディングプロジェクトの評価シートについて
4. その他

【資 料】○ 次第

○ 【資料1】令和5年度(2023年度)政策評価結果概要

○ 【資料2】令和5年度(2023年度)政策評価結果(施策シート)

○ 【資料3】令和5年度(2023年度)政策評価結果(施策の方向性シート)

○ 【資料4】2023年度政策評価結果への意見等について

○ 【資料5】2023年度政策評価結果への意見集について

○ 【参考1】第4次豊中市総合計画（本編）

○ 【参考2】第4次豊中市総合計画（概要版）

○ 【参考3】第4次豊中市総合計画前期基本計画 行政評価指針

○ 【参考4】政策評価の考え方とチェックポイント

○ 【参考5】令和5年度(2023年度)政策評価結果 用語集

【会議録】下記のとおり

■開会

■成立要件の確認（事務局）

本審議会規則第7条第2項に基づき、会議の成立要件を満たしていることを確認。
傍聴者はなし。

■資料の確認（事務局）

■案件 1. 総合計画審議会部会の審議結果の報告について

会長

本来であれば、各部会長から審議会に審議結果を報告することとなっておりますが、事務局からそれぞれの部会の審議結果の概要の説明をいただきたいと思ひます。

委員

異議なし

事務局

(【資料 4】 2023 年度政策評価結果への意見等についてについて説明)

会長

資料 4 で各部会から出たご意見を 59 項目のご意見に集約いただきました。各部会で発言した内容の漏れがないかなどご指摘いただきたいと思ひます。

委員

意見なし

■案件 2. 2023 年度(2022 年度実施分)政策評価結果への意見集(案)について

会長

それでは案件 2 に移りたいと思ひます。案件 2 について事務局から説明をお願いします。

事務局

(【資料 5】 2023 年度政策評価結果への意見集について説明)

会長

これまでの案件 1 および案件 2 の説明を受け、まず部会長より補足等あればいただきたいと思ひますがいかがでしょうか。

委員

政策評価シートの全体の印象で言うと、どんどんわかりやすくなっていると感じております。ただ意見集にまとめていただいているよう、もう少し改善されれば、さらによくなると思ひます。

第 1 部会担当の政策評価シートでは、今年度から評価が B から A に変わったシートが幾つもありました。K P I ではパフォーマンスを評価し、K G I では、そのゴールを確認します。今回は前期基本計画の最終年度ですから、評価の対象をゴールとするのか、パフォーマンスとするのか、書いていらっしゃる方と我々審議会委員との間で共有できていなかったように思ひます。

今まではパフォーマンスを評価していたのに、最終年度でゴールを評価したために A としたのか、或いは、何かが良くなったので A と評価したのがシートからは把握ができませんでした。もう少し

し、担当部署と理解を共有する必要があると思いました。

また、しっかり書かれている部署と、もっと頑張っ欲しい部署が分かれてきた部分がありました。施策内容が非常にコンパクトでわかりやすいような分野は評価しやすく、書きやすいということもあると思います。逆に、施策によっては、対象とする人が多いなど、評価が難しいものもあると思いますが、それはそれとして、今年度以降のところでは、工夫が必要だと思っています。多くの人を対象とする施策などの評価が難しい施策は、より明確に評価できるような手法を一緒に考えていく必要はあるのかなと思います。

会長

第2部会担当の政策評価シートでは、施策の方向性シートで未達成な指標が多くあったにもかかわらず、指標の達成度合いに触れられておらず、総合評価との整合性が取れていないシートが散見されました。前期基本計画の最終年度がコロナ禍であり、指標が未達成になった場合もあると思いますが、コロナ禍のどういう影響で指標が未達成になり、どのような代替施策をしたのかまで踏み込んで分析いただくと、よりわかりやすく総括ができたのではないかと思います。

また、第1部会担当のハード分野でいうと、成果は出ており継続して進めていけば問題ないため、Aと評価している施策もあると思います。その場合、今年度は新たな目標を立てて、新たな施策へ転換する必要もあると思います。

それでは、各委員の方からご意見をいただきたいと思っています。資料5のまとめ方や追記した方がいのご意見等あればお願いします。

委員

資料5のNo.7【課題提示について】です。

事業には、短期的に対応しなければならないものと、中長期的に対応しなければならないものがあると思います。いつまでにどのレベルに到達したいのかという、いわゆる納期の目標を設定していただくと、それぞれの事業の緊急度や重要度が明確になり、課題がわかりやすくなるのではないのでしょうか。現状は、Doのところに入力が入ってしまっていて、Checkの部分が少し抜けていると思いますが、その原因の一つに、これらの意識が欠けていることがあげられると思います。

市民の方にこの目標を提示するとなると、いわゆる説明責任も出てくるので難しいとは思いますが、やはり、いつごろを目指してやって、結果どうだったのかというところが、全般的に抜けているように思います。

委員

大学でも職員や学生を評価し、評価を受けていますが、難しいなと思うのは、例えば、教員がカリキュラムを変えたりシステムを整備したりするという、いわゆるアウトプットはそれなりにすぐできます。しかし、そのことによって、本来の教育効果が上がったのかというアウトカム評価は、学生も一緒に頑張ってくれないといけませんのですぐに成果に現れるかということ、なかなか難しい部分もあります。そのため、自分たちのパフォーマンスを評価するのであれば短期的に結果は出せる一

方、相手がいる場合に、その相手のパフォーマンス上げていくことに苦勞します。その辺りは行政の施策も同じような悩みがあるのではないかと思います。

会長

いわゆるビジネスの世界ではいつまでに達成するかの納期を明確にすることは、スタートラインの話です。一方、行政の場合は、計画策定時にその目標を設けるのか、あるいは、計画策定後にさらに成果を出すために再プランニングするのかは考える必要があると思います。

委員

第1部会の担当分野で言うと、例えば第5章の2で、行政手続きの電子化率が100%達成したことを成果として挙げられていましたが、これは、やれば結果が出てくる内容です。そういう事業は、すぐに結果が出るとは思います。やはり、対人のパフォーマンスが評価に絡んでくる分野は、短期的に結果を出すのは難しいところもあるのではないかと思います。

委員

行政の事業は、多くが相手のあることなので、パフォーマンスを評価しようとしても、一概には出来ないとはいえます。

ただ、この5年間は、コロナ禍が重なり、大きな変化点だったと思います。コロナのような、当初は想定していなかった大きな社会的な問題や環境的な問題が起きたときに、計画を見直したり、変更したり、さらにはやめたりせざるをえないこともあると思います。しかしながら、現状の評価は、その視点ではなく、平常時通り事業を行った結果、コロナの影響で、できなかった、という評価になっていると感じました。

予期せぬ環境変化にどう対応するのかは、計画段階からある程度検討しておく必要があると思います。計画の段階で、いつまでにどのレベルに到達したいのかという、納期の意識があれば、そのような緊急時においても課題が明確になり、どのように対応するべきかにつなげることができるのではないかと思います。

委員

今のご意見は、意見集のNo.5と6の間に、コロナ禍に対する対応として特記してもいいのではないのでしょうか。昨年度の本審議会では、コロナ発生の当初年度は、緊急時なため対応が難しかったという評価で終わったとしても、2年目に入ると、それはもう突然起こったのではなくて、コロナ禍を前提としながら進めていく必要があり、そこに対してはもう少し頑張らないといけなかったのではないのかというコメントもありました。そこを改めて今回再評価をされたい、というようなことを付け加えるといいのではないのでしょうか。

委員

このコロナ禍をどう受けとめて評価するかは、大事なことだと思います。発生当初は、コロナが理由でできなかったこともあると思いますが、もう約3年も経っていたわけですので、その中でどん

な工夫をしたかもしっかりと書いていただきと思います。また、同じようなことが今後起こらないとも限りませんので、起こった際にどうするかを検討しておく必要はあると思います。

委員

コロナは、なかなか大変なことだったと思いますが、それに対して、どのように対応して、結果どうという課題があり、今後どうしていくのかがシートにはあまり出てきません。市として、このような状況の際にどう対応するのかを、もう少し具体的にコロナの言葉を入れて説明されるといいのではないのでしょうか。

会長

出来なかった一方、進んだこともあると思いますので、エクスキューズ的な内容が一つ入ってもいいのではないのでしょうか。ただ、エクスキューズだけではなく、それに対する対応、その結果と課題、今後の方針という評価は必要だと思いますので、この視点を盛り込むといいのではないのでしょうか。

委員

コロナ禍の取組み等については、例えば、私は保護者の立場から、学校での取組みに関しては、何となく理解できます。一方で、他の部署では、異なる取組みをされていると思います。豊中市の総括として、次の非常時には、こんな対応ができるというような学びがあったような具体例はありますか。

事務局

例えば、コロナ発生当初、パンク状態にあった保健所業務を回すため、他部署の職員を保健所に派遣し続けていました。これはイベントや魅力発信業務を担う部局など、部局によっては業務を縮小していましたので、その空いたリソースを使って、他の施策の応援に回すという人員のオペレーションをしていました。

そのほか、コロナが始まった年の2020年10月にデジタル戦略課を設置し、全庁のデジタル化を強気に推進しました。年度途中ではありますが、仕事を休止せざるを得ない部署からデジタル戦略課へ人事異動を行いました。市全体の総括としてどのように表現するかは難しい部分がありますが、本来の所管業務という垣根を越えて取り組んだのがこの3年間で、非常時における柔軟な人員配置・組織運営については、今後の非常事態時に活かすことができると考えています。

委員

審議会では、すでに作られている政策に対する評価しかできていなかったわけですが、コロナ禍によって、実行はできないものがあっても、垣根を越えて、取り組むことができたことがあるということは、評価として残しておくことに意味があるのではないかと思います。

会長

想定外の被害に対して垣根を越えてやったことに対する評価はあっていいと思いますが、あくまでも第4次総合計画前期計画の目標は、コロナ禍があってもなくても必要だということで決めていると思います。コロナの影響で計画どおり事業ができなかったのであれば、事業の縮小幅を最小限に留めることができた、ということの評価してもいいのではないのでしょうか。通常であれば、事業を実施しなければ予算は余るものを、垣根を越えて事業を実施したことにより、市民のためになる方法で予算を執行したという説明ができると思います。

事務局

おっしゃるように令和2年度は、コロナが来るという想定のないまま作った予算でしたので、止める仕事を特定し、補正予算を組んで減額しました。そして減額して作ったお金をコロナ対策の財源として回しました。

会長

それも含めた最終年度の政策の達成度を評価していただくと私たちも評価しやすいと思います。

委員

第1部会では、行政手続きの電子化率が100%になったことをPRするよう意見しましたが、この電子化率100%はコロナを契機としたものだと思います。であれば、コロナを契機として取り組んだことによって急速に電子化が進み、市民の利便性が上がってきたというところも、アピールできると思います。この内容は、資料4のNo.51にありますので、追記いただければと思います。

会長

意見の、まとめ方についてです。資料4のNo.56、No.57、No.59は、その他のご意見となっております。個別フィードバックのみの対応となっておりますが、No.56は、資料5の意見集(案)のNo.5に入れてもいいのではないのでしょうか。それから、No.57、No.59は意見集(案)のNo.4の意見に追加し、No.4に「具体的かつわかりやすい」の文言を追記されてはいかがでしょうか。

委員

資料4の59項目の意見については、綺麗にまとめていただいていると思いますし、資料5の意見集(案)も、それぞれの括りごとにエッセンスを抽出しまとめられているので、わかりやすいと思います。

委員

PDCAが回るような書き方になっているかどうかは、資料5のNo.4の市民にとってわかりやすい文章になっているかどうかの観点でも重要だと感じます。取組みと結果、残された課題と今後の方針がつながっていることで市民にとってはわかりやすい内容になります。

■案件 3. リーディングプロジェクトの評価シートについて

会長

それでは案件 3 に移りたいと思います。案件 3 について事務局から説明をお願いします。

事務局

(【資料 2】令和 5 年度(2023 年度)政策評価結果(施策シート)、【資料 3】令和 5 年度(2023 年度)政策評価結果(施策の方向性シート)について説明)

委員

「魅力ある学校」や「魅力向上」という言葉があるのですが、何をもって魅力としてののかが見えません。庄内さくら学園の開校など新たに始めたことが書かれているのは成果として分かりやすいですが、開校したことの何をもって、魅力向上につながったのかは分かりづらいです。

また、施策の方向性シートでは、指標と実績値が、そこまで A に繋がるような数字になってないと思います。その他 A に繋がるような指標は無いのか気になるところでもあります。一方、施策の方向性シートの成果では、「まちごと暮らスクール」に参加した児童、保護者の満足度が高いことについて記載されており、実際に参加した人が楽しく過ごせたことは成果としていいと思います。

影響が大きかった事業の「南部地域活性化構想の推進」の文章が途中で切れてしまってるので、それは直していただきたいと思います。

事務局

このリーディングプロジェクトが設定された背景としては、南部地域が、豊中市内が人口微増傾向にあった中でも、唯一人口が減少している地域だったというところがまずあります。特に少子化が進行していた中で、学校の小規模校化が進み、クラス替えできないなど、人間関係が硬直化していることなどが課題としてありました。また、他地域と比べて課題を抱えているお子さんもいらっしゃいました。豊中市内の中でも南部地域の学校を立て直していくことが大きな課題としてある中で、義務教育学校という形で、新たな学校の仕組みを作り、かつ、子供たちの課題解決につなげていくことで、南部地域が抱える人口減少、少子化の進行に歯止めをかけていくというところを取組みの大きな柱としていました。今回上げている庄内さくら学園は一つのハード、ハードソフト両面の取組みとして掲げています。

ご指摘の通り、何をもって魅力とするのかは、ご議論があるところかとは思いますが、まず、南部地域に住む市民の方々に、この学校に行きたいと思ってもらうことが、一つの目標だと思っています。

また、今年度、豊中市は、待機児童が 4 月 1 日時点でございましたが、要因としては、南部地域に当初見込んでいたよりも、未就学の子供たちが増えてきていて、保育のニーズの供給量を超えてしまったところがございます。待機児童が出てしまったということ自体は非常に残念なことでありますが、リーディングプロジェクト等の取組みを通じて、我々が見込んでいたよりも、未就学の世帯が残ってくださっている、入ってきているということがあります。南部地域では、年少人口が増えてきた地域もございますので、年少人口の減少に歯止めがかかっている部分や、南部地域に未就

学の子どもたちが増えてきていることは、一定、5年間の大きな成果としてはあると考えています。

会長

このリーディングプロジェクトの最終目標は、魅力ある学校をつくるというよりは、人口減少に歯止めをかけることや、地域の活性化が最終目標になるかと思います。であれば、取組みは進行中であることが施策シートからは読み取りづらいと思います。

委員

少し、成果を書きすぎているように思います。例えば、施策シートの〇一つ目は、「〇〇の事業を実施し、魅力向上に繋がりました」ではなく、「魅力向上のために〇〇の事業を実施しました」としていただき、施策の方向性シートの評価の中で、受講者の満足度などに触れる程度に留めておくとうよかったのではないのでしょうか。施策シートでは、上から〇3つ全部で、地域の魅力向上に繋がったことを成果としてあげていますが、何を根拠に魅力向上に繋がったとしたのかが読み取れません。リーディングプロジェクトが進行中ならば、もう一つ手前で留めておいて、取組みを続けますというストーリーで記載いただくといいのではないのでしょうか。

会長

リーディングプロジェクトは後期基本計画ではどのような位置付けになるのでしょうか。

事務局

リーディングプロジェクトは10年間の計画ですので、継続して取り組みます。

会長

後期の5か年でどうするか、短期的な目標を作ったほうがいいという考えもあります。

委員

南部地域におけるハード面の問題は十分に解決した上で、現状の取組みを進められているのでしょうか。ハード的な問題はまだ残っているのでしょうか。

事務局

南部地域では、古くから建っている木造住宅が密集しているエリアが残っているなど、ハード面での課題はまだございます。ただ、現在進行形で進めているところではございまして、そういった密集市街地を解消するような施策や、道路の整備というところも進めながらやっているところです。その他、学校跡地をどのように活用していくかも、検討を進めているところです。

委員

リーディングプロジェクトは前期基本計画の中で、主な取組みとして(1)～(3)の3つを掲げています。しかしながら、施策シートに書かれてる内容は、ほとんどが「(1)子どもたちの元気があふ

れるまちづくり」の内容になっています。総花的に書く必要はなく、効果のあったことを記載するといいますが、例えば、前期基本計画の主な取組みの「(2) 誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり」では、地域の防災力とか防犯力が謳われています。「(3) にぎわいとゆとりのあるまちづくり」では、良好な都市景観の形成について謳われていますが、そういった部分の記載が、この施策シート、施策の方向性シートには、ほとんど出てきません。

リーディングプロジェクトの目的は地域の魅力向上や、南部地域に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるようにすることだと思うので、子どもの部分だけではなく、そういった部分も大切だと思います。

例えば、施策の方向性シートの指標に掲げている「防犯や防災、交通安全の対策が充実してると思う人の割合」は、目標値を上回っています。この部分は、南部地域の方々の評価が高かったということだと思いますので、どんなことに取組み、どういうところに効果があったのかを記載いただくと理解は深まると思います。

リーディングプロジェクトなので、うまくいった取組みが他地域でも展開できるといいと思います。ぜひ、その辺も触れていただけたらありがたいと思います。

事務局

リーディングプロジェクトは、各部署が取り組んでいる事業を集めたり、横串を刺して部所間で連携して取り組みを進めることなどで、総合的にこの地域を良くするプロジェクトになりますので、他の章の取り組む事業の再掲が多くあります。

その中で、この前期基本計画の計画期間は、本市初の義務教育学校の開校、また庄内コラボセンターの開設に力点を置いていたので、書きぶりは、教育や子どもの内容がメインになっていました。まさに現在進行形のプロジェクトですので、主軸の事業にそって、書きぶりは変わっていくと考えています。

会長

教育・子どもに絞って記載されるのであれば、この前期基本計画の期間にメインで取り組んだ事業だったということ、はっきり書いていただくといいと思います。

委員

リーディングプロジェクトの主な取組みの柱が 3 つあるのであれば、施策の方向性シートの今後の方針については、この三本柱に沿って書いておいたほうがいいのではないかと思います。

委員

これまでの議論にもありましたとおり、施策シートの総合評価の理由に、「魅力向上」が何度か出てきますが、ここでいう魅力とは何かがよくわかりませんでした。事業を実施した結果、魅力が向上したのでは、説明が足りないと思います。実施したことで、どのような効果があったかをもう少し具体的に記載いただきたいと思います。

また、庁内の研修などで考え方を整理されているかと思いますが、それらを活用して事業の効果を的確に説明いただければ、評価シートの記載内容が市民にとってより分かりやすくなると思います。

委員

リーディングプロジェクトは部署横串で取り組んでいるという話もあり、他のところとやり方が異なるという話もありました。他のシートと書きぶりを変えていただくと、もう少しわかりやすくなると思います。

会長

施策シートの総合評価の最後の2行に、「市民意識調査の結果にも表れていることから、Aとしましたと記載されていますが、どの市民意識調査の結果を指すのかが分かりづらいため、市民にもわかりやすくなるよう、説明を入れるといいと思います。

委員

用語集についても、いくつか誤字脱字などミスがあります。このあたりも市民の方に公表されるものになると思いますので、ミスのないようによろしくお願いします。

会長

これで案件2についての議論は終了といたします。

■案件4. その他

事務局

(連絡事項「審議会からの意見集について」説明)

会長

すべて終了いたしましたので、これをもちまして「第2回豊中市総合計画審議会」を閉会したいと思います。ありがとうございました。

(以上)